

野川マップ

生きもの観察のすすめ

野川とハケの森には、魚や鳥、昆虫や草花など、たくさんの生きものが生息しています。ここでは、野川流域で良くみかけることのできる水辺と緑地の生きものを紹介します。



水生生物の観察

野川では、ドジョウやメダカ、コイやナマズ、スズエビ、スッポンなどたくさんの生きものを見ることができます。湧水地は、低水温できれいな水が流れ、ホトケドジョウやサワガニなどを見ることができます。

野鳥の観察

野川を代表する鳥として、カワセミが見られます。また、カモの仲間やサギの仲間など多くの鳥に出会うことができます。ハケの森では、オオタカやフクロウなどにも出会うことができます。



昆虫の観察

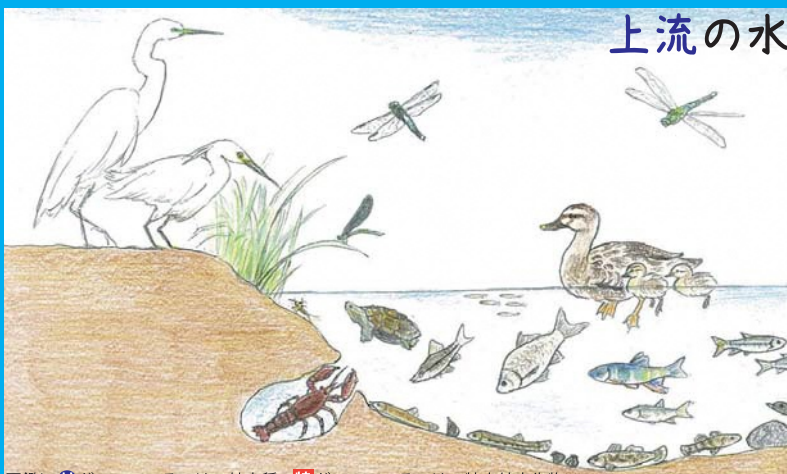
ハケの森では、カブトムシやクワガタ、チョウの仲間を見ることができます。水辺では、多くのトンボの仲間やゲンジボタルなども見られます。

植物の観察

野川では、ヒメガマやヨシ、湧水地では、ミクリやセキショウなどを見ることができます。ハケの森では、クヌギやコナラなどの樹木や、キツネノカミソリやニリンソウなどの花々が見られます。



上流の水



図鑑に外がついているのは、外来種。特がついているのは、特定外来生物。

鳥類 ※留鳥(りゅうちょう)とは、年間を通して野川周辺に生息し、季節による移動をしない鳥。
コガモ : 冬鳥 37.5 cm
カイツブリ : 留鳥 26 cm
コサギ : 留鳥 61 cm



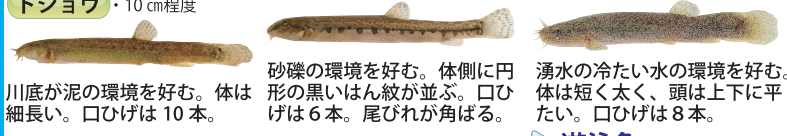
カルガモ : 留鳥 60.5 cm
 くちばしの先は黄色。5～8月頃ヒナを連れて家族が見られる。
オスは頭部が栗色、目の周囲が緑色。カモ類で一番小さい。
カモ類より小さい水鳥。盛んに潜水し小魚や昆虫を食べる。
くちばしが黒色、指先が黄色。指先で魚を追い出し捕食する。

昆虫類
アモイトンボ : 4～9月 30～35 mm
ハグロトンボ : 6～11月 57～68 mm
シオカラトンボ : 5～11月 47～61 mm
ウスバキトンボ : 6～10月 44～54 mm



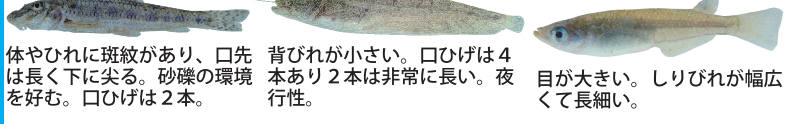
オスのお腹は緑色に輝く。水のきれいな緩い流れに生息。
 オスの腹部の第8・9節が水色。メスは同色型と異色型がいる。
 オスもメスもお尻の先が黒い。メスは別名むぎわらトンボ。
 水辺で良く見られる。翅の幅が広く、体は赤褐色。

魚類 ▶ 底生魚
ドジョウ : 10 cm程度
シマドジョウ : 10 cm程度
ホトケドジョウ : 6 cm程度



川底が泥の環境を好む。体は細長い。口ひげは10本。
 砂礫の環境を好む。体側に円形の黒いはん紋が並ぶ。口ひげは6本。尾びれが角ばる。
 湧水の冷たい水の環境を好む。体は短く太く、頭は上下に平たい。口ひげは8本。

カマツカ : 13 cm程度
ナマズ : 50～70 cm
▶ 遊泳魚
ミナミメダカ : 5 cm程度



体やひれに斑紋があり、口先は長く下に尖る。砂礫の環境を好む。口ひげは2本。
 背びれが小さい。口ひげは4本あり2本は非常に長い。夜行性。
 目が大きい。しりびれが幅広くて長い。

カワムツ : 15 cm程度
タモロコ : 8 cm程度
モツゴ : 8 cm程度



オイカワに似るが、背びれ前端が赤く体側に藍色の線がある。
 体の側面にぼんやりした線がある。口ひげは2本。
 口先がとがり、上を向いている。体の側面に黒くて目立つ線がある。

野川流域の水辺の生きもの

辺の様子



湧水地
上流には、多くの湧水地がありますが、川の水量は下流より少なく、ほとんどが浅い流れとなっています。また、湧水が流れ込むため、低い水温やきれいな水を好む生きものが比較的多く見られます。

下流の水



水辺の生きもの図鑑

ダイサギ : 留鳥 90 cm 	アオサギ : 留鳥 93 cm 	ゴイサギ : 留鳥 57.5 cm 	カワセミ : 留鳥 17 cm 	カワウ : 留鳥 82 cm 	バン : 留鳥 32 cm 	イソシギ : 留鳥 20 cm 	タシギ : 冬鳥 27 cm
-------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	-------------------------------	------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	------------------------------

ギンヤンマ : 5~10月 65~84 mm 	オニヤンマ : 6~10月 82~114 mm 	アキアカネ : 6~12月 32~46 mm 	ミヤマアカネ : 7~11月 30~41 mm 	ゲンジボタル : 5~7月 15 mm 	植物 オギ : 花9~10月 多年草 	ヨシ : 花8~9月 多年草 	ミクリ : 花6~7月 多年草
--------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------	--	------------------------------	-------------------------------

ウキゴリ : 10 cm程度 	スミウキゴリ : 8 cm程度 	クロダハヒ(トウヨシノボリ) : 6 cm程度 	甲殻類 カワリヌマエビ属 1 cm程度 	スズエビ 5 cm程度 	アメリカザリガニ : 10 cm程度 	サワガニ : 甲幅3 cm
---------------------------	----------------------------	------------------------------------	---	---------------------------	-------------------------------	--------------------------

ギンブナ : 15~40 cm 	コイ : 40~80 cm 	オイカワ : 15 cm程度 	貝類 サカマキガイ 1 cm程度 	カワナナ : 3 cm程度 	両生類 ニホンアマガエル 3 cm程度 	アズマヒキガエル : 6~18 cm
アブラハヤ : 10 cm程度 	タイクバラタナゴ : 6 cm程度 	アユ : 15~25 cm 	タイワンシジミ : 2 cm程度 	マシジミ 	ニホンアカガエル 5 cm程度 	ウシガエル 12~20 cm

辺の様子



湧水地
下流は、多摩川との合流部が近いため、多摩川と野川を行き来する生きものも見られます。また、瀬や淵といった多様な流れが形成され、深いところには、コイやナマスなど大型の魚類が生息しています。

- クイナ**：冬鳥 29 cm
- ハクセキレイ**：留鳥 21 cm
- セグロセキレイ**：留鳥 21 cm
- キセキレイ**：留鳥 20 cm



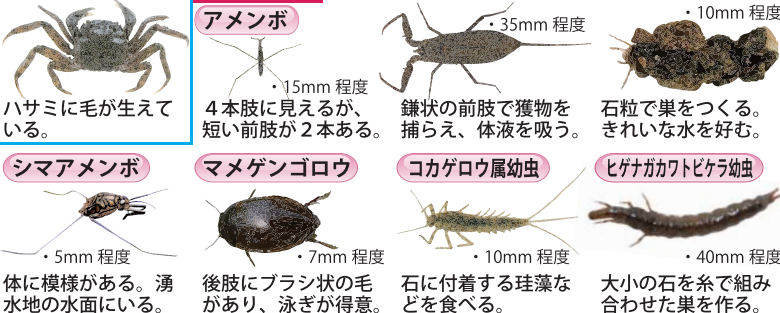
クイナ：水辺の草地で見られるが、警戒心が強く茂みに逃げ込む。
ハクセキレイ：「チッチチツ」と澄んだ声で鳴く。よく尾を上下に振る。
セグロセキレイ：黒色の顔に白色のまゆ。「ジジツジツ」とにごった声で鳴く。
キセキレイ：お腹が黄色い美しいセキレイ。清流を好む。

- ヒメガマ**：花6~7月 多年草
- ケイヌビエ**：花8~10月 一年草
- セキショウ**：花4~5月 多年草
- アレチウリ**：花8~9月 一年草 **特**



ヒメガマ：茶色の穂を指で押すと種があふれ出す。
ケイヌビエ：穂先に毛がある。水辺や湿地に生える。
セキショウ：ハケの森の湧水地に群生している。
アレチウリ：河川敷に繁茂している。

- モクスガニ**：甲幅7 cm
- 水生昆虫**
- タイコウチ**：35mm 程度
- ニンギョウトビケラ属幼虫**：10mm 程度



モクスガニ：ハサミに毛が生えている。
アメボ：15mm 程度。4本肢に見えるが、短い前肢が2本ある。
タイコウチ：鎌状の前肢で獲物を捕らえ、体液を吸う。
ニンギョウトビケラ属幼虫：石粒で巣をつくる。きれいな水を好む。
シマアメボ：5mm 程度。体に模様がある。湧水地の水面にいる。
マメゲンゴロウ：7mm 程度。後肢にブラシ状の毛があり、泳ぎが得意。
コカゲロウ属幼虫：10mm 程度。石に付着する珪藻などを食べる。
ヒゲナガワトビケラ幼虫：40mm 程度。大小の石を糸で組み合わせた巣を作る。

- は虫類**
- クサガメ**：甲長18~25 cm **外**
- ミシツビアカミガメ**：甲長12~30 cm **外**



スッポン：甲長20~35 cm。甲羅が柔らかく、泥底を好む。
クサガメ：とても臭いにおいがするためクサガメと呼ばれる。
ミシツビアカミガメ：石の上で甲羅干しをする。

上流の緑



- 鳥類**
- モス**：留鳥 20 cm
- キジバト**：留鳥 33 cm
- ハシブトガラス**：留鳥 56.5 cm
- ハシボソガラス**：留鳥 50 cm



モス：見かけによらず獰猛。トカゲや昆虫などの小動物を食べる。
キジバト：「デデポポー」と鳴く。カワラバトと違い1~2羽でいる。
ハシブトガラス：「カアカア」とすんだ声で鳴く。ごみをよく荒らす。
ハシボソガラス：「ガアガア」と濁った声で鳴く。鳴く時におじぎをする。

- アオジ**：冬鳥 16 cm
- シメ**：冬鳥 18 cm
- ツバメ**：夏鳥 17 cm
- オオタカ**：留鳥 50 cm



アオジ：単独で行動する。春先には、やぶのふちや木の枝に姿を現す。
シメ：尾が短く、力強いくちばし。かたい種子も割って食べる。
ツバメ：低く飛ぶと雨が降ると言われている。人家にも巣を作る。
オオタカ：河原や大きな公園の樹木にとまり、大型の鳥などもねらう。

- は虫類**
- ニホンカナヘビ**：15~20 cm
- 昆虫類**
- ツマグロヒヨウモリ**：4~12月 30~40 mm
- ベニシジミ**：6~9月 15~18 mm



ニホンカナヘビ：護岸の上で日向ぼっこしている姿をよく見かける。
ツマグロヒヨウモリ：青緑と紫が美しいハチ。スズバチの巣に産卵する。
ベニシジミ：メスは前翅の先が黒い。幼虫の食草はスミシ。
アオダイショウ：1~2m。幼虫はギンギンを食べる。成虫は一度に遠くまで飛ばない。

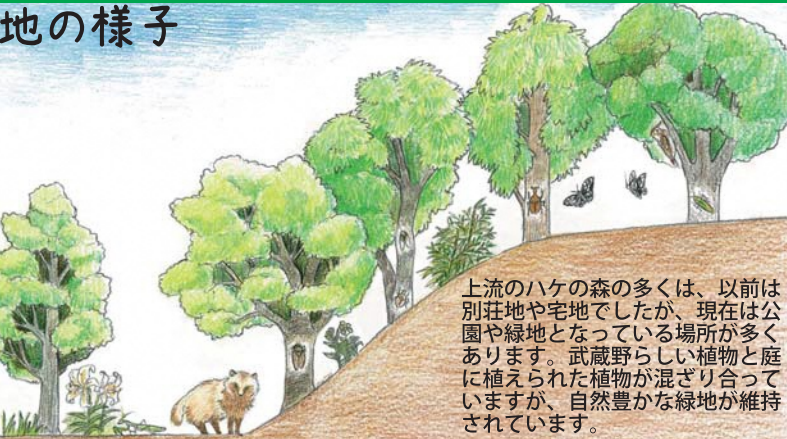
- アオダイショウ**：1~2m
- キタキチョウ**：3~11月 20~25 mm
- ツマキチョウ**：3~5月 20~30 mm
- ヒメジャノメ**：5~9月 20~26 mm



アオダイショウ：日本最大のヘビ。無毒だが、不用意に掴むと噛まれる。
キタキチョウ：成虫の状態越冬するので、早春の頃はよく目立つ。
ツマキチョウ：翅の裏がカモフラージュ柄。オスの前翅の先が黄色。
ヒメジャノメ：幼虫はイネ科やスゲなどを食べ、成虫は樹液に集まる。

野川流域の緑地の生きもの

地の様子



上流のハケの森の多くは、以前は別荘地や宅地でしたが、現在は公園や緑地となっている場所が多くあります。武蔵野らしい植物と庭に植えられた植物が混ざり合っていますが、自然豊かな緑地が維持されています。

下流の緑



緑地の生きもの図鑑

湧水地

オナガ ：留鳥 37 cm  カラスの仲間だが、尾が長く頭が黒く、羽はきれいな青色。	ヒヨドリ ：留鳥 27.5 cm  「ピーヨピーヨ」と大きな声で鳴く。街路樹でも見られる。	ムクドリ ：留鳥 24 cm  秋冬は群れて多い時は数千羽の集団でねぐらを形成する。	シジュウカラ ：留鳥 14.5 cm  のど元から腹にかけてネクタイがあり、太いのが雄。	メジロ ：留鳥 11.5 cm  目の周りの白いリングが目立つ。梅などの花蜜をよく吸う。	カワラヒワ ：留鳥 14.5 cm  ナタネなどの種子に群がる。飛ぶ時翼の黄色の部分が目立つ。	コゲラ ：留鳥 15 cm  キツツキ類で最小。枯木に穴を開けて巣を作る。	アオゲラ ：留鳥 29 cm  日本固有の大型のキツツキ類。生木に穴を開けて巣を作る。
チョウゲンボウ ：留鳥 30 cm  上空で羽ばたきながら静止し、餌をさがす姿がよく見られる。	フクロウ ：留鳥 50 cm  夜にネズミなどを狩る。耳がよく、音を頼りに狩りする。	植物 クス ：花8~9月、多年草  根からデンプン採取し、つるはカゴなどの材料に使う。	ワルナスビ ：花6~10月、多年草  とげが多く害草とされる。	ユウゲショウ ：花5~9月、多年草  夕方に花を咲かせることから名がついた。	カラスノエンドウ ：花3~6月、二年草  つる性の植物。豆は熟すと黒くなる。	ムラサキマユ ：花4~6月、越年草  直射日光の当たらない場所に生育。有毒。	ネジバナ ：花4~9月、多年草  湿った日当たりのいい場所に生育する。
ツバメシジミ ：4~10月、11~14 mm  翅にツバメの尾のような突起がある。マメ科の草原に多い。	ゴマダラチョウ ：5~8月、35~42 mm  幼虫の食草はエノキ。落ち葉の中で幼虫越冬する。	カラアゲハ ：4~9月、45~70 mm  後翅の表は青緑色で美しい。春はツツジの花などを訪蜜。	ショウリヨウバッタ ：8~11月、50~80 mm  日本で最大のバッタ。イネ科植物が生える草地によく見られる。	オオカマキリ ：8~11月、70~95 mm  丈の高い草地でよく見られる。緑色と茶色の個体がいる。	アブラゼミ ：7~9月、53~60 mm  翅に茶色のまだら模様。「ジジジー」と鳴く。	ツクツクボウシ ：7~10月、40~47 mm  成虫は7月から発生するが、初秋になると鳴き声が目立つ。	タマムシ ：6~9月、25~40 mm  色の美しさから宝石に例えられる。ハケの森で稀に見られる。
アオスジアゲハ ：4~10月、45~55 mm  左がアオスジアゲハ、中央がナミアゲハ、右がキアゲハ。雨上がりなど急に気温が上昇した晴天の日には、アゲハ類が吸水に集まる。	ナミアゲハ ：4~10月、53~60 mm  小さい個体をおんぶする姿をよく見るが、子どもではなく雄。	キアゲハ ：4~10月、40~65 mm  田んぼや周辺でよく見られる。側面に黒色の線がある。	オンブバッタ ：8~12月、20~40 mm  日本で最大のコロロギ。翅をすり合わせ「コロコロ」と鳴く。	コバネイナゴ ：8~11月、33~44 mm  成虫で越冬する。背中には7つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。	エンマコオロギ ：8~11月、26~34 mm  成虫で越冬する。背中には7つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。	ナミテントウ ：3~11月、4.7~8.2 mm  成虫で越冬する。背中には7つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。	ナナホシテントウ ：3~11月、5.0~8.6 mm  成虫で越冬する。背中には7つのはん紋がある。アブラムシをよく食べる。



地の様子



下流は、周辺の宅地化が進んだため緑地は多くありませんが、残されたハケの森は、ボランティアによる積極的な活動にも支えられ、多様な生きものが暮らせる豊かな森として維持・保全されています。

- エナガ** ・留鳥 ・13.5 cm
- シロハラ** ・冬鳥 ・24 cm
- ツグミ** ・冬鳥 ・24 cm
- ウグイス** ・留鳥 ・15.5 cm



樹木の多い公園等で見られる。繁殖期以外は群れて行動する。



腹部が白い。地面に降りて昆虫や木の実を食べる。



芝地などで2〜3歩歩いては胸を張り止まる動作を繰り返す。



「ホーホケキョ」とさえずる。笹やぶなどで姿が見られる。

- キンラン** ・花4〜6月 ・多年草
- キツネノカミソリ** ・花8月 ・多年草
- ヤマユリ** ・花7〜8月 ・多年草
- ニリンソウ** ・花4〜5月 ・多年草



林に生え、3〜10輪位の花をつける。



明るい林床に自生。毒がある。



見た目が豪華「ユリの王様」と呼ばれる。



ニリンソウだが二輪じゃないこともある。

- キボシカミキリ** ・5〜11月 ・14〜30 mm
- アカシジメ** ・6〜8月 ・17〜20 mm
- エゴノキガゾウムシ** ・6〜8月 ・3.5〜5.5 mm



触覚が長い。背中に薄黄色のはん点がある。



成虫は美しく、コナラやエゴノキなどの果実の汁を吸う。



別名ウシツラヒゲナガゾウムシ。エゴノキの実に集まる。

貝類



殻は右巻き。スジがはっきりしているものが多い。

- カブトムシ** ・6〜8月 ・32〜53 mm
- コクワガタ** ・5〜9月 ・17〜54 mm
- ノギリクワガタ** ・6〜9月 ・39〜71 mm



夜にクヌギやコナラの木を見て回ると、発見できる。



日中は樹木の根際や土中に潜み、夜になると活動する。



長い大あごをもつ。樹木の高い所で休んでいることが多い。

哺乳類



活動時間は主に夜間。雑食でなんでも食べる。